

きらり

## おばま 人

### 「ふるさと納税」を呼び掛けて！

■問い合わせ 企画課 ☎内線 345

福井県が提唱して、平成20年5月にスタートした「ふるさと納税制度」。昨年度は、42人から寄付（ふるさと納税）をいただき、「いいとこ小浜づくり活動支援事業」などに利用しています。

ふるさと納税は、ふるさとへの寄付です。里帰りした親戚や小浜市を愛する人に、ぜひふるさと納税の呼び掛けをお願いします。

※ふるさと納税は5,000円からで、1万円以上の寄付をいただいた方には、小浜の特産品を進呈します

#### ふるさと納税の手順

- ①ふるさと小浜寄付申請書を企画課へ提出する  
※申請書は企画課窓口や市公式ホームページにあります
- ②企画課から送付する振込用紙で寄付金（ふるさと納税）を振り込む  
※福井県のふるさと納税の振込用紙でも小浜市への寄付ができます
- ③振込後に送付する寄付金受領書を保管し、確定申告時に減税を受ける  
※減税額には上限があります

若い力で地域に活力を!!  
加斗ク LOVE



芝生広場の整備に集まった加斗ク LOVEのメンバー（7月10日・鯉川シーサイドパーク）

五月末、加斗地区で発足した加斗ク LOVE。七月十日に、区民と共同で、鯉川シーサイドパークの芝生広場の整備に取り組みました。  
「若い人はたくさんいますが、地区の行事に参加する機会がなかったんです。若い人たちの集まる場を増やし、地区の行事に参加することを目標として、加斗ク LOVEを立ち上げました」と話すのは代表の木村武史さん（上加斗・30歳）。メンバーは、男性九人、女性二人の十一人で、平均年齢は二十八歳です。  
「芝生広場の整備は、これからの海

### 若者のための地域づくりを目指したい

水浴シーズンを見据え、訪れるお客さんが少しでも気持ち良く利用できるよう、計画したんです。広場面積が四百㎡と広かったんで、地元の人たちにも声をかけ、約五十人の人に集まってもらいました」と話します。

ほかに、鯉川シーサイドパークでの花壇整備やビーチバレーボール大会を計画。八月末には、恒例の夏祭りを開く予定です。

「夏祭りは例年、地元の人たちに頼りきりなので、今年こそは、自分たちの手で企画し、運営していきたいですね。加斗地区だけでなく、ほかの地域からも、たくさんの方が来てくれることを願っています」と話す木村さん。

これからの活動については、「今は、月一回程度みんなで集まる機会を持ち、情報交換をしたり、これからの活動計画について話し合ったりしています。今後は、もっと地元の若者を取り込んで、鯉川シーサイドパークから、徐々に活動の輪を広げていきたいですね。そして、若者が地元に残りたいと思えるような地域づくりを目指したいです」と意気込みます。

市内各地で加斗ク LOVEのような市民活動団体の取り組みを目にするようになりました。このような取り組みが、今後、地域の枠を超え、市内全体に広がることを期待します。

●あなたの周りの「きらり輝いている人」「生き生きしている人（グループも歓迎）」を紹介してください。  
市民協働課 広報・広聴グループ ☎53・1111 内線 373

#### 俳句

小浜市俳句作家協会

夕立の流れし風の夜に入りて 小浜神田 島田 玲子  
大西日神興三基を迎へたり 新小松原 本村 一子  
椎落葉お初の墓と親しまれ 小松原 森田 昇

#### 山柳

川柳かもめ教室

年金になったあの汗あのお涙 四谷町 宇多 芳子  
寸胴の私に壺の括れなし 雲浜二丁目 宮脇 和子  
街へ出よ地図を開けよと今朝の風 城内一丁目 江口 文代

#### 短歌

小浜尚翠短歌会

燃え盛る松明担ぐ男衆の 雲前 宮崎 洋美  
雲に濡れたる背に火の粉飛ぶ  
道の駅語り部カードを首にかけ 小松原 内田 静子  
尋ねし客に我が町語る  
常高寺「初」のゆかりの境内で  
茶の湯一服いただきてをり 雲浜 米田 愛子

（わかさ短歌会からの訂正）

広報おばま七月号掲載の短歌を次のとおり訂正します

緑なす萬徳寺の庭眺む夢の世界に住みたる心地

雲浜一丁目 江口 典子

広告

広告

広告

広告

広告

広告